

Bill Boyd convention speech  
2006 RI convention  
Malmö/Copenhagen  
20 minutes

過去 101 年間、ロータリーはその規模と認知度において、目覚ましい発展を遂げてきました。一つの小さなクラブが大規模なボランティアの国際的ネットワークとなり、その会員は、地元や海外の地域社会において、懸命に奉仕する意志と本物の変化をもたらすことのできる力を兼ね備えた人々です。ユニセフの元事務局長キャロル・ベラミー氏がおっしゃったように、「ロータリーは地球という村において尊敬される存在となりました。事実、この世界を地球村に発展させたのはロータリーです」

今日のロータリーは、いかに官僚制度や不寛容といった障害が良識と善意によって克服できるものであるかを示す、最高の手本です。また、多くの人々が意を決するなら、偉大なことを達成できるということの証しとも言えます。

ロータリーを通じて、私たちは一人一人が個人として成し得ることより、ずっと多くのことを成し遂げる機会を得ました。ロータリーの一員となる前には考えも及ばなかったような形で、私たちは人々の生活を、人生を変えるチャンスを得たのです。それは、世界中の 32,000 の地域社会において、クラブとその会員による巨大なネットワークの驚くべき力があればこそ、可能になったことです。

また、ロータリーを通じて、私たちにはより良い未来に向かって率先するチャンスがあります。

ロータリーにおいては、クラブの強みからすべてが始まります。私が「率先しよう」と皆さんに呼びかける時、皆さんのクラブにおいて、職業において、ひいては地元の地域において、率先するロータリアン一人一人のパワーに訴えかけているのです。すでに多くのロータリアンが、旗幟を鮮明にし、安直さに惑わされることなく正しい選択を行い、誠実さと倫理に基づいて行動する模範を示すといった、さまざまな形で率先しています。

私がロータリアンとして送ってきた長い年月、とりわけ会長エレクトになってからというもの、実にシンプルなロータリーの教訓が人々の人生を変える力を発揮するのを、幾度となく繰り返し目撃してきました。世界中の大勢のロータリアンと出会い、静かなるリーダーシップと真心の親切、そして他者を助けたいという願望とがどれだけ多くを成し遂げることができるか、その力を目の当たりにしてきました。

南アジアを襲ったあの壊滅的な津波の後、世界各地からロータリアンが救援に駆けつけました。実際に現地に赴くことのできなかつたロータリアンたちは、募金活動に奔走し、集まった資金を送金しました。そして、その資金を最大限に生かすことができたのは、成すべきことが何かを知り、それを成すための最適な方法を把握していた被災地に住むロータリアンが活動してくれたおかげです。他の救援団体が荷物をまとめ、引き揚げてい

った後も、ロータリアンは続々と現地に乗り込み、必要な時に必要な場所に必要な助けを送り続けたのです。

数カ月前、ローナと私は被災地を訪問しましたが、一瞬のうちに失われた住宅や生計の手段が、黙々としたロータリアンの活動と不屈の献身によって再建されていました。どの村でも、ロータリアンが学校や家を建て、生計を建て直し、私たちが応援しますよという態度を示して、人々に希望を与えていました。

テレビカメラにとって、津波はもう過ぎ去った遠い過去の出来事でしかありません。しかし、その影響は今なお何十万人の人々が日々直面しているのです。他の人々が忘れ去っても、ロータリーは忘れません。ロータリーは、101年存続してきました。ですから、ロータリアンは長期的な計画の何たるかを心得ているのです。

パキスタンで私たちが目撃したのは、地域最大の地震後にロータリアンがもたらした違いです。その多くは、文字通り、生死を分ける違いでした。あのような災害の後では、何千人という生存者が病気の波に命を奪われる可能性があります。しかし、地震の前日にポリオ撲滅チームが到着していたため、彼らが介入し、無数の命を救うことができたのです。救援活動が一時的な解決策から長期的な復興作業へと移行するにつれ、ロータリアンが現地で活動を続けるだろうと、私は確信しています。

どの地域社会にもニーズはあります。ロータリアンはそれらのニーズを把握し、取り組みに必要な支援源を集める術に精通しています。ニーズが血液銀行や小学三年生用の辞書、あるいは中高生対象とした指導力養成コースなど、どのようなものであっても、ロータリアンはそれぞれに呼応して立ち上がります。

私たちがこの世に生を受ける前から、ロータリーは世界中で数え切れないほどの人々の人生をありとあらゆる形で変えてきました。ロータリーがこれからも末永くその力を発揮し、人々を助け続けることができるよう、ロータリーのリーダーとして、私たちは責任を負わなければなりません。

日々、新しいロータリアンが、クラブに入会しています。同時に残念ながら、毎日去っていくロータリアンもいます。この件については繰り返し述べられてきましたので、周知のことと思います。集会において誰かが会員増強について話し始めると、決まって興ざめたようなロータリアンの眼差しがそこそこに見られます。

いかにして新会員を惹きつけるかについて話すことに時間を費やすのは、賢明ではありません。その時間があれば、クラブの充実に費やしたほうが遥かに効果的と言えます。何故なら、ロータリーは、適切に機能していれば、現会員を維持し、新会員を惹きつけるに十分な魅力を備えているからです。

新しい会員がクラブを離れていくのは、リーダーシップの弱さや費用の問題や奉仕の機会が与えられないことが原因だと、やめた本人たちが語っています。そこで各自の地区

内クラブにおいてこれらの原因に力を注がれるよう、私から皆さんにお願いいたします。クラブの管理運営をしっかりと効果的に行うこと、会費に十分見合う価値を提供すること、意欲を喚起するような有益で実り多い種々のプロジェクトを地元地域だけでなく、海外のクラブと協同して実施すること、この3点です。

ロータリー・クラブを善意にあふれ、親しみやすく有益な存在にするために日々精進することが、皆さん一人一人に託されています。上意下達であってはなりません。すべてのクラブ会長とクラブ会員の弛まぬ努力によってのみ、達成されるのです。

私たちは、共により充実したロータリーを築くことができます。私たちは、共にこれまでの積み重ねと経験と共通の知識を土台としてさらに成長し続け、すでにあるすべてのものを最大限に生かしていきます。

毎年、各クラブは次年度にどのような活動ができるか、その可能性を探ります。ロータリーが最も活躍できる場所はどこか、最も大きな違いをもたらすことができるのはどこか、支援源を最も有効に生かせるのはどこか、と問うてみます。

私たちが会長強調事項を選ぶ過程もそれと同じで、世界中のロータリアンに最大限の価値をもたらすために、慎重に、願わくば賢明な選択を行います。

ここで、次年度の強調事項について触れさせていただくことにします。

カール・ヴィルヘルム会長と同じく、私は継続の力を信じています。協力の精神を信じています。そしてもう一つ、持続性も重要であると信じています。

私たちロータリアンは、「人に魚を一匹与えればその日の飢えをしのがせることができるが、釣りの技術を教えれば、一生魚に困らない生計を与えと同じことになる」という諺の真理を理解しています。

それでは、私たちの地域社会を生涯にわたってより良いところにしていくには、どうしたら良いでしょうか。

それには最も基本的なところから始めましょう。それは、水です。きれいな水がなければ、ほとんど何もできません。水がなければ、作物を育てることはできません。安全な飲み水がなければ、子供の健康を守ることはできません。子供たちが水感染の疾病に冒されたり、何マイルも歩いて井戸まで水汲みに行く日課を強いられたりする限りは、通学もままならず、識字率の向上は望めません。水は命そのものです。喉が渴いていれば、他のことなど何もできるはずはないのです。

それで私は水保全を強調事項の一つとしました。

清浄な水が十分に提供されたとしたら、どのようなことが起きるでしょうか。湯きが癒されると、他のニーズに意識が行くようになります。そのニーズとは飢えです。コペンハーゲンにいる皆さんには実感できないかもしれませんが、飢餓は世界中が抱える大問題です。毎年、1,100万人の子供が飢え死にしており、そのほとんどは開発途上国の子供たちです。70パーセントは予防可能な病気で死に、その主な死因は栄養失調と水感染の疾病とされています。食糧なくして、健康はあり得ません。また、健康なくして、希望を持つことはできないのです。

そこで、保健と飢餓というもう一つの強調事項が生まれました。

健康な家族は、貧困の向こうに広がるより良い将来を思い描くことができるからです。そして、貧困を免れるただ一つの道、それが識字率の向上です。識字力のある子供は識字力を備えた大人に成長し、自分の村の外にも世界が広がっていることを知り、どこにいてもより良い生活が可能であることを知るに至ります。

このことから、私は識字率の向上を強調事項に加えました。

私は識字を特に大切に考えてきました。それは実家が本屋であったことにも起因しますが、識字力がどれほど大きく家族や地域社会を変える力を持っているかを示す例を数知れず見てきたからでもあります。識字力こそが、貧困の連鎖から逃れる道です。識字力は特に地域社会において正当な評価を受けていない女性たちに、社会的な力を与えます。

識字は、また、地域社会が水資源や保健と飢餓の問題に取り組み、次世代を教育することを可能にします。識字は目標であると共に、初めの一步なのです。

ロータリーは、世界のすべての問題を解決する責務を担うわけにはいきません。しかし、ロータリーのリーダーとして私たちは、すべてのクラブとロータリアンが地元地域社会のために全力を尽くす力を備え、また、奉仕活動を持続していく手段を備えることができるよう、しっかりと確認していく必要があります。そうすれば、私たちが携わった仕事はすべて、長きにわたって影響力を持ち続けるでしょう。

長期的に関与するのがロータリーです。ですから、ロータリーのリーダーとして、私たちは、数週間先、数カ月先、数年先といった将来だけでなく、数十年先をも考えなければならぬのです。

そこで、ロータリー家族を強調事項として選びました。

多くの人々が時間に追われる生活を送っている今日、ロータリーか家族か、どちらかを選択せよと、会員に迫るわけにはいきません。私たちは、年齢にかかわらずすべての人々を快く迎え入れることのできるようなロータリー・クラブ作りに励まなければなりません。

ん。それには、会員の家族が参加できるクラブ・プロジェクトやすべての人々にとって興味深く、極力費用を抑えた行事を用意する必要があります。

私たちは、配偶者やロータリアンの遺族の方々のことを忘れてはなりません。彼らもロータリー家族の一員であるのだという自覚を持っていただけるよう努めるべきです。

そして、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、その他数多くの青少年のためのプログラムの重要性を、しっかりと心にとめましょう。これらの若者たちが、私たちの未来なのです。

ロータリアンとして、私たちは、クラブや地域社会で行われてきた従来のやり方を惰性としてそのまま繰り返すことに満足しません。私たちは現状維持に甘んじることなく、生じた問題に対して、誰かが解決してくれるだろうなどと責任逃れをすることもありません。それどころか、解決しようじゃないかと、自ら先陣を切るのが私たちです。より良い未来を築く技術と願望を備えているのが私たちです。そして、「率先しよう」と立ち上がるのが、私たちなのです。

2006-07 ロータリー年度、どうか皆さん、「率先しよう」を実践してください。これが私のテーマであり、一つ一つ善行を成すことによって着実に世界を変えていくロータリアンの力に対する私の信念を表すものです。

今日、世界が必要としているのは、有名人ではなく、模範となる人物です。よく働き、自分の責務を重く受け止め、心からの思いやりを持った人です。今日、世界が必要としているのは、「率先しよう」と邁進するロータリアンなのです。

地元だけでなく広範囲における地域社会のニーズについて熟考し、それらのニーズに取り組むために率先するのが、ロータリアンとしての私たちの仕事です。

コフィ・アナン国連事務総長は、以前、次のようにおっしゃいました。「十分な数の人々が物事を良くしようと決断すれば、物事は良い方向へと変わっていきます。一つの目的の下に普通の人々が集まる時、変化を起こすことができるのです」

今日、私たちは、より良きロータリー、より良き地域社会、より良き未来に向かって率先しようという共通の目的の下、ここに集まりました。

その目的が達成するまで待っているだけでは十分でないことを、ここにいる私たちは知っています。私たち全員が、共に「率先しよう」と先頭を切っていくのです。

ありがとうございました。